

石巻市民会館は、昭和42年に建設された建物でありまして、既に築40年以上が経過し、客席や空調、舞台など、ほとんどの設備が建設時のままとなっていることから、老朽化が著しく、演じられる側、鑑賞される側、双方の皆様に、御迷惑をおかけしてきたところであります。

私が市長に就任してから、舞台側、客席側の現状を確認し、改修と新築の両面からの調査を進めることとして、今年度、耐震調査の実施と新しい市民文化ホールの基本構想の策定を進めてまいりました。

本年の各定例会では、多くの議員の方々より、市民会館の移転新築への判断を早めるべきとの御提言をいただき、本来、業務にはなかった耐震診断の中間報告について担当へ指示し、先月下旬にその報告を受けたところであります。

お手元の資料に耐震診断の中間報告が記載されておりますが、ホール棟の楽屋や舞台、ホワイエの構造耐震指標、 I_s 値は、0.7以上となっているものの、ホール棟の客席の I_s 値は、0.3から0.4の間という結果でありました。

また、写真にもありますとおり、客席床の沈下など、老朽化の状況についても確認されております。

現在の市民会館を長期間使用するためには、耐震補強費用の

ほか、根本的な改修も必要であり、相当の費用負担が予想されますことから、最終結果が出る前ですが、新しい市民会館、（仮称）石巻市民文化ホールを建設することを方針決定いたしました。

建物の建設場所や事業費等については、来年2月までの納期で策定中の基本構想の結果などにより判断することとなりますが、合併特例債が使える平成27年度までの完成を想定しております。

また、建設年次における一般財源の負担軽減をはかるため、建設のための基金の設置についても、今定例会中に議会に提案する予定であり、今後、一般の皆さまからの寄付の受入れもしてまいりたいと考えております。

なお、新築までの間、現市民会館を使用するかどうかにつきましては、3月までに耐震補強工事の概算額が算出されますことから、それらを総合的に勘案し、再度判断することとしております。

建設を計画どおり進めていくため、今後、職員体制の強化を図るとともに、市民の皆様からの御意見や専門家の方々の御提言なども拝聴しながら、新市の芸術文化の拠点となる（仮称）石巻市民文化ホールを建設してまいりたいと考えております。

新市の一大事業の完成に向け、全庁を挙げて取り組んでまい
る所存であります。